

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773400278		
法人名	有限会社 サポートハウス藤		
事業所名	サポートハウス藤 藤井寺		
所在地	藤井寺市野中4-11-14		
自己評価作成日	平成29年5月29日	評価結果市町村受理日	平成29年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サポートハウス藤は民家を利用したグループホームです。その佇まいから、利用者には懐かしさを覚えて頂いています。施設は、毎日朝の散歩から始まります。散歩では、池に遊ぶ鴨や出会ったわんちゃんの手相をしたり、地域の人達との何気ない会話を楽しんだりしています。こういった毎日の散歩で少しでも利用者の気分転換になったり、その時の季節を肌で感じてもらえたらと思っています。また、地域の人達に施設の事を少しでも知ってもらえたらと思っています。施設へ帰ってからは、生活リハビリを兼ねて、食事の用意や片付け、洗濯物のたたみや居室の掃除などいろいろな家事をしてもらっています。スタッフは、出きるだけその人の出来る事を少しでも長く維持出来る様、決して過剰介護にならない様気をつけて支援しています。理念通り「ゆったり」とした毎日を過ごすという事を心掛けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現管理者が友人とともに、介護保険開始の年に民家を借りて開設し継続してきた、定員7名の1ユニットの事業支所である。ホームの特色は、「ゆったり、いっしょに、楽しく、ゆたかに」のホーム理念のとおり、利用者と職員と一緒に、この地域の中に特に構えることなく、当たり前に溶け込んでいることである。利用者の日常は、毎日の散歩での近隣とのふれあいに始まり、食事や家事の手伝い、歓談、午睡などのほか夕食後の入浴も取り入れており、自宅で暮らす高齢者のように生活している。この「普通の暮らし」を続けるため、利用者のできることを、したいことを目標とする介護計画を作成し、職員自らセンター方式のツールも部分活用する工夫を行いながら実践・評価・見直しを繰り返して、管理者、計画作成担当者と職員が利用者を支援している。最近のアピール点としては、管理者自ら、アロマセラピーを学んで採り入れて、ホームでの安らぎを醸し出す工夫を行っていることがあげられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり いっしょに 楽しく ゆたかに」の理念の元、スタッフは一丸となって、利用者様一人一人が地域の人たちと仲良く穏やかに過ごしていける様努めている。	利用者を中心に、職員と家族および地域の人たちが、ともに楽しく気持ちよく過ごせるようにとの願いがこもった、端的で覚えやすい表現の事業所理念である。管理者と職員はこの理念を共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設として、季節による地域での行事に参加したり、毎日の散歩ではそこで出会った地域のひとつたちとの会話を楽しんだりしている。時には庭になった季節の花や果物の交換をしたりもしている。	日課として実施している散歩で、馴染みとなった近隣住民との挨拶やペットの犬との触れ合いや、秋祭りの山車の来訪などもあり、地域に密着した交流がなされている。隣接の家で実った柿を頂くなど、周囲との良好な関係が培われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にかかれる運営推進委員会では、地域の人たちも来て頂けるので、その場を借りて実践上施設が得た認知症の人達への支援のあり方などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生員や地域包括を交えて、事業所からの現状報告や地域からの情報など盛んに交換し合っており、施設としてサービス向上に活かせる事はどんどん活用している。	民生委員、市職員、地域包括職員、管理者・職員の出席で隔月に開催している。不定期だが家族の参加もある。事業所の運営状況の報告の他、懸案事項として、非常災害時の近隣住民による利用者の見守り・支援の依頼などにつき、参加者との意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの情報提供依頼については速やかに対応し情報を提供したり、調査などにも応じている。	市の担当課とは、介護保険関係の申請代行や、生活保護に関わる申請等で定期的に訪問している。運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の情報を提供し、指導や助言を得られる機会となっている。地域包括から入居要請もあり、連携協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については日々の生活の中でどんな些細なことでも利用者様にとって拘束にならないかなど話し合いながら、いかに安全に安心して生活して頂けるか工夫をこらして接している。	職員は身体拘束の弊害を理解し日常のケアの場でも、拘束にならない支援に努めている。現在、身体拘束該当の利用者はいない。日中は玄関を開放して閉塞感に配慮している。身体拘束排除のマニュアルを書棚に具備しているが、活用が十分でない。	身体拘束排除のマニュアルに基づく勉強会を行い、認知症の利用者への身体拘束による行動心理症状に及ぼす影響などの理解を、さらに深められることを期待したい。また、この機会に他の書類も含めて、文書ファイル等の再整備も期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に、高齢者虐待防止関連法について全スタッフに指導を行っている為、施設内では虐待の事例はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、現在学ぶ機会が無いが必要があればその都度地域の関係者と話し合って活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所検討時に施設での生活についてなど十分に理解して頂ける様説明させて頂き、ご家族の不安や疑問など取り除き納得して頂ける様配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には、スタッフによる日頃の生活ぶりや健康状態などを記した介護記録を読んで頂き安心して頂ける様努めている。また、なかなか訪問出来ないご家族にはFAXで知らせている。ご家族には施設への要望などを聞き取っている。	少人数のユニットなので、毎月、利用料支払いで来訪の家族も多く、頻回に面会の家族もあり、話を聞き介護記録を確認してもらったり、電話連絡も含めて、家族との信頼関係は築かれている。家族アンケートでも好評価を得ている。要望等がある場合は、意向を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日々の業務における改善点を素早くスタッフから聞き取り、月2回行われるカンファで取り上げ、スタッフ全員で検討し、施設全体がより良い支援ができる様にその場の意見を施設運営に反映させている。	月2回の会議はカンファレンス、勉強会とともに、職員の意見要望等を話し合える場でもある。職員に外部研修参加も奨励し、介護に関するレベル向上を図っている。管理者は、シフトの変更などの要望にも柔軟な対応を行い、働きやすい職場環境づくりに注力しており、職員の定着率は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々のスタッフの生活の実現にあわせて、勤務環境・条件を近づけられる様に対応している。また、定期的に勉強会を開き、やりがいや向上心をもてる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今施設では内外問わず盛んにいろいろな研修に参加してもらえる様勤務時間等考慮している。参加したスタッフからはそこで得た情報をいつも他のスタッフに発信してもらう様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に地域グループホームとの交流会に参加し、勉強会や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入するに当たっては、まず本人や家族とのよりよい関係作りを考えて、きめ細かな連絡報告を行い、不安な事や要望等を聞きだし、本人の安心を得る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず家族の安心を得るために、相談や連絡・報告をきめ細かく行い、しっかりとした信頼関係を築き、また損なわない様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との関わりの中や家族からの要望の中から、その時その時の本人の状況に応じた必要な支援を見極めて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の散歩や家事を利用者さんと一緒に行う事で、場面場面で起こる些細な出来事が利用者さんの古い記憶を呼び起こしたり、また家事に関しては生活の知恵みたいな物を引き出したりして生き生きされる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフはご本人を共に支えるという気持ちで家族とは接しているのので、いつも家族の気持ちにより添い、家族の思いだったり意見をしっかり受け止める様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、本人が昔よく行っていた公園だったり喫茶店だったりへは行ってもらっている。また、昔馴染みの友達や知り合いにはいつでも来訪して頂ける様にしたり、電話や手紙での交流を深める様にしたりしている。	散歩の際に友人に出会う利用者もいる。昔の知人が突然訪れる利用者もあり、本人との関係が不明な場合などは、職員がそれとなくフォローする事例もあった。家族と外食などに出かけたり、正月の自宅外泊など、それぞれ、親しい人との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、毎日の生活の中で利用者同士の関係をしっかり把握し、場面場面では利用者さんの間で盾にもクッションにもなりしながら、より良い関係を持って頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの良き関係を保っていきたいので、必ずこれからいろいろな相談に応じる事が出来ると伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で得た利用者さんへの気づき(暮らし方の希望や意向)を大事に、カンファで全スタッフで話し合い共有していく様にしている。	介護記録に「場面のエピソード」という項目を設け、利用者夫々の思いや意向を把握・共有して支援に活かすことに努めている。意思疎通が難しい人でも、ふとした折に示す感情の機微を汲みとったり、家族とのアセスメントで把握した、利用者の思いや要望を、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境、また馴染みの物などフェイスシートを通じてスタッフ全員がよく把握出来る様努めている。これまでのサービス利用についても定期的なモニタリングを通じて把握する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らし方を一人一人しっかり把握した上で、それぞれのペースで生活して頂ける様に時間や曜日など決まった時間にサービスに入る事は避けている。心身状態に関しては医療との連携を深めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは、その人がその人らしく生活出来る様に毎日の様子をしっかりと観察しそれを介護ノートに記録し申し送り時などで全員に共有出来る様に努める。ケアマネは、それを家族にも伝え、それぞれの立場の意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。	ホーム独自のアセスメントを基に介護計画を作成し、月2回のカンファレンス、毎月のモニタリング評価により、センター方式の部分的なツールも活用しながらサービス内容の修正を行い、介護計画の見直しに反映している。計画の見直しは定期は概ね3か月毎及び、要介護認定更新と状態変化時に行い、利用者・家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ノートに設けられた「場面のエピソード」にはその日に起きたその人らしい出来事が記録され、スタッフ全員に順次申し送られ共有の物になっていく。その事はまた、介護計画見直し時の参考にしていっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により変化していくニーズについては、その都度スタッフ・管理者がカンファで話し合い、その時その人にあった支援のありかたを検討し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設としては訪問美容しか地域資源として利用してこなかったが、今後は特に防災に関して地域のボランティアに頼らなければと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に関しては、その人のかかりつけ医にお願いしている。内科医、歯科、リハビリの先生方には定期的に訪問してもらっている。その他の診療科に行かなければならない時は、家族やスタッフが同行して通院している。	入居前からのかかりつけ医や、本人・家族の同意を得ての協力医療機関の医師による月2回の往診を受けている。歯科医の往診を受ける利用者もいる。他の診療科目を外来受診する場合は、家族の付き添いや、職員の同行で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には、看護師はいないが、医療ノートを設け一人一人の健康面で気がついた事や変化などを記録し、訪問された医師に伝え指示を受ける様にしている。また、緊急時の対応についても看護師を通じて医師と直結出来る様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、病院関係者との情報交換を頻繁に行い、利用者には安心して頂ける様に施設から適宜お見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所される時に、重度化した時や終末期の支援のあり方を十分に説明し同意してもらえる様にしている。が、必要となれば各関係者との連携を図り、家族の意向に沿う支援が行える様に努めている。	入居時に、重度化時や急変時は、医療機関と連絡を取り、救急治療や緊急入院での対応を支援する旨を口頭で説明し、本人・家族の同意を得ている。重度化し、積極的医療処置を必要としないでホームでの終末期ケアの要望の場合の、医師・看護師・家族・職員の支援体制の構築については検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われるカンファでは、利用者さんの急変や事故時の対応については常に勉強しその方法については全員習得している。また非常時については、地域と連携しながらそのマニュアルを見直している最中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今災害時の非常事態の避難場所や避難法など、運営推進委員会を通じて地域との連携を深め、一から見直している最中。その上出来上がったマニュアルに沿って避難訓練を行ない、全スタッフが習得出来る様にしたい。	今年は2月に1回目の消防訓練を実施している。スプリンクラーを設置している。法改正による警報器と通報設備の連動に変更は検討中である。非常用品の備蓄や暖房用灯油の保管方法改善も検討している。災害時、近隣住民による利用者見守りの応援を運営推進会議において要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保については常に管理者が中心になって助言・指導を行っている。また、スタッフ間においても、お互いこの事には充分気をつけて支援していく様声を掛け合っている。	特に接遇マナー研修と規定づけていないが、日常の支援の中や、会議で利用者に対し人格を尊重した態度で接することの大切さを話し合っている。親しさと慣れからくる指示的対応などに留意して、利用者への声掛け、言葉遣い、呼称などに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは、一人一人の思いや希望を毎日の何気ない会話の中や表情から自然と汲み取れる様なそういった関係作りにスタッフは努めている。また、そこで知った情報を共有しその人らしい生活をしてもらえる様に働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、あくまでも利用者の生活ペースに合わせてその時の状況判断で利用者にあった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る洋服は、スタッフが手助けをしながら選んで頂いている。また、定期的にフェイスマッサージと称してボランティアの人にマッサージだけでなくお化粧もしてもらって楽しんでいる。訪問美容ではその人らしくカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りだけではなく、一年の行事にあわせてご馳走作りも、また利用者の誕生会のご馳走づくりも、いつもスタッフの見守りの中で楽しく会話しながら、その人に合った作業をしてもらって皆でおいしく頂いている。	食材は担当職員がまとめて調達し、献立、味付けなどは栄養バランスと嗜好に配慮しながら、職員が調理している。利用者も、食材を刻んだり食器洗いなど、出来ることを役割や張り合いとして一緒に手伝っている。利用者の状態に応じて2室に分け、職員は見守りながら持参の弁当と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事の様子は介護ノートに詳しく記載され、それぞれの摂取状況はスタッフ全員把握できている。利用者によってはその状況から刻みやとろみを取り入れ、その人が食べ易い様に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に声掛けし、スタッフの見守り・一部・全介助によって、歯科医の指示に従ってその人に合ったケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本と考え、それぞれの排泄リズムをつかみ、その人に合ったトイレ誘導を行っている。これは、どんなにトイレでの排泄が困難な人でも同様に行っている。	現在、入居者7名のうち2名は布パンツでほぼ自立、他の方は布、リハパン、パッド併用である。介護記録で排泄リズムを把握し、トイレに誘導し排泄の自立を支援している。夜間はポータブル利用の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄を基本と考えているので、下剤の使用は最小限に留めている。そのため、毎日の水分摂取や運動には細心の注意を払い、朝食後には必ず便座に座ってもらうようにしている。この時おなかのマッサージをしたりする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週三日で対応している。それぞれ好きな時間に入れる様午前午後に分けている。また、拒否や体調不良があった場合には曜日を換えたり、清拭に切り替えたりして清潔保持に努めている。	家庭用の浴室、浴槽に、週三回の入浴を基本としている。全員職員は2人介助も行って、浴槽に浸かれるよう支援をしている。入浴は午前と、夕食後の時間帯に分けて柔軟に行っている。現在は、入浴拒否の利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リフレッシュタイムにはそれぞれの利用者の状況に応じて時間回数を決めている。その時の体調によっては、時間場所を選んで休むようにしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の目的・用法・用量に関してはスタッフ全員が常に把握し対応している。また、服薬後症状に変化が起きた時にはすぐに医療の方に報告し指示を受け、詳しく医療ノートに記載する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の生活歴の中から趣味や嗜好品、楽しかった事などを見つけ、施設での生活の中にそれらを取り入れ楽しく過ごして頂ける様に工夫していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設としては散歩は毎日欠かさず行っている。また季節の行事として花見などに出かけたり、地域での秋祭りに参加したりしながらそこで出会った人達との会話を楽しんだりしている。ご家族とは外泊という形で楽しんでいる。	毎日の散歩を日課としており、近隣の古墳の堀の周辺などを巡ったり、スーパーに買い物で外出することもある。体調によりホーム周辺での屋外の光を浴びるなどの支援もしている。散歩は馴染みの人との交流の場ともなっている。季節の花見は、他市に開設したホームと合同で遠出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在施設としてお金を持って買物に行くと言う支援を行っている利用者はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、本人からの要望があれば自分で掛けてもらっている。また、手紙に関しては、年賀状や季節のあいさつ文などを、レクリエーションの一環としてスタッフが支援しながら書いてもらう様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、民家を利用したこの建物自体に懐かしさを覚えられほっとした表情をされるが、スタッフは季節の花やかわいいイラストなどを部屋に飾って楽しんでもらうようにしている。今は散歩の途中で出会うワンちゃんに皆さん夢中です。	広い庭に囲まれたホームの玄関を入るとリビング、台所と食堂があり、1階に4室と浴室、トイレ2か所が配置されている。リビングの壁には手作りの作品を飾り、縁側から庭の光が明るい。両側に手すりを付けた階段の上の2階は3室で、災害時に室内から出られる広いルーフバルコニーもある。普通の家でゆったりと暮らす趣がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の大半をリビングで過ごされる利用者が心地良く過ごせる様、スタッフは日々の利用者間の変化を敏感に感じ取り、ソファの配置一つにも心を砕き、いつも気持ちよく過ごしてもらえる様配慮し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部屋一部屋違った空間を持つ施設の部屋に、それぞれの馴染みのある家具や思い出のある品々を並べ、それぞれ味わいのある個性あふれる部屋で毎日心地良く過ごされている。	1階に4室、2階に3室の居室は、床にカーペットを敷き、ベッド、ナースコール、冷暖房などを設置している。もと民家の改造なので、押し入れや、ロッカー付きとか、各部屋の向きや雰囲気異なるが、各自馴染みの調度品や思い出の飾り物などを置き、それぞれに居心地よく暮らせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ気持ちよく過ごしてもらえる様に各利用者の居室には花の名前をつけたり、所々に案内板を設けたり、手すりや滑り止め、段差をなくしたり工夫して、一人でも施設の中を移動してもらえる様に配慮している。		